


想いを伝える

暮らしの花

Flowers in Life

大切な人に贈りたい
身近な花120種

うれしいときや落ち込んだとき、
誰かに想いを伝えるとき……。
日々の暮らしに華やぎと癒しをくれる
身近な花々を紹介します。



想いを伝える

暮らしの花

Flowers in Life

花言葉について

ABOUT LANGUAGE OF FLOWERS

花言葉の歴史

※ 花言葉の先駆け「セラム」

17世紀のオスマン帝国（現トルコ）には、花束に想いを託して恋人に贈る「セラム」という風習があった。1717年、メアリー・W・モンタギューが著書でこの風習を紹介し、イギリスでも知られるようになった。

※ フランスの花言葉ブーム

19世紀、フランスの貴族の間で恋心や悪口、批判などを草花に例えるという文化が流行。1819年には、シャルロット・ド・ラトゥールによる世界初の花言葉辞典『花言葉』が出版され、大ブームとなった。

※ 日本への伝来

明治時代初期に花言葉が伝来。当初はヨーロッパの花言葉をそのまま使用していたが、やがて日本独自の花言葉も提案されるようになった。



花言葉は誰が決める？

本来の花言葉は、各地の伝説や神話、風習、花の特徴などに由来しているが、日本では現在、「日本花普及センター」が中心となって決めており、なかには品種の開発者自身が決めたものや公募によって決めたもの、販売会社が販売促進のために決めたものなどもある。



花言葉を広めた人たち

※ メアリー・W・モンタギュー

イギリスの書簡作家。コンスタンティノープル（現イスタンブール）大使となった夫に同行して約1年間オスマン帝国で過ごした際、花言葉の風習を知って著書にまとめ、イギリスに紹介した。

※ オーブリー・ド・ラ・モトレイ

世界中を旅して、オスマン帝国に4年間滞在していた人物。1727年にスウェーデン王カール12世の宮廷に招かれ、花言葉を紹介したという。

※ シャルロット・ド・ラトゥール

世界初の花言葉辞典『花言葉』の著者。この本には、下記のようなラトゥール独自のルールで分類した花言葉が、270種類以上掲載されている。

ラトゥールの花言葉分類ルール

ルール①

その草花の見た目や色、芳香、生態など、性質や特徴を言葉で表現したもの。

ルール②

西ヨーロッパにおけるその草花の文化や伝統を、1つの単語で形容したもの。





アサガオ

Morning Glory

愛情、固い絆、あふれる喜び、はかない恋

和名 アサガオ(朝顔) 学名 Ipomoea nil 分類 ヒルガオ科 / つる性一年草 原産地 熱帯アジア、ヒマラヤ高原 つる長 1〜3メートル

日本で最も発展を遂げた古典園芸植物の一つ、

アサガオ。夏の風物詩としてなじみ深く、小学校の授業で栽培した人も多いだろう。

国内での歴史は、奈良時代に遣唐使が中国から薬として持ち帰った種子に始まる。以降、盛んに品種改良が行われ、江戸時代には観賞用植物として流行した。そして明治時代へ移り変わる頃には、東京の各地で「朝顔市」が催されるようになった。

花名は、早朝に咲いて昼にはしぼんでしまう花を朝の美人の顔に例えた、「朝の容花」という言葉に由来したものと。伝来当初は、中国名の「牽牛子」と呼ばれており、当時「朝顔」というと、キキョウやムクゲを指したという。

Point to Grow

開花時期：7〜9月

出回り時期：5〜8月

● 発芽温度は20〜25°C。5月中旬〜6月に種をまく。

● 水やりは朝夕の涼しい時間帯に行く。

● 少なくとも午前中いっぱいには日当たりの良い場所に置く。



..... Language of Flowers

【花言葉】「愛情」「明日も爽やかに」「固い絆(白)」「あふれる喜び(白)」「はかない恋(青)」「短い恋(青)」「冷静(紫)」など

【言葉の由来】「愛情」や「固い絆」は、つるを支柱に絡ませる様子になむ。また、「はかない恋」や「短い恋」は、朝に咲いて昼にはしぼんでしまうという、短命の花であることに由来する。

【誕生花】7月6日、8月1日、8月4日など



上/ラッパのような形の花を咲かせるアサガオ。なかでも紫はポピュラーな花色の1つだ。下/東京都台東区で毎年開催されている「入谷朝顔市」の様子。約120もの業者がアサガオの鉢を販売する。

02

あなたに愛される幸せ、恋の喜び、節制

アザレア

Azalea

和名 セイヨウツツジ(西洋躑躅) 学名 Rhododendron simsii 分類 ツツジ科/常緑
 低木 原産地 東アジア、ヨーロッパ 樹高 二〇センチ〜二メートル

品種によって二重咲き、二重咲き、八重咲きのものがあり、色の種類も豊富なアザレアは、観賞用として人気が高い。

その起源は、日本や中国、台湾などで栽培されていたツツジ科の植物で、そのうちの一種が一六八〇年に中国からオランダへと渡り、現在のアザレアの原型となったという説

がある。そして、ベルギーを中心にヨーロッパで室内観賞用の鉢植えとして改良され、明治時代に日本に伝来した。

名前は、乾燥した土地を好む性質から、「乾燥」を意味するギリシヤ語「Azaleos」に由来する。また、花言葉の一つである「禁酒」は、英語の「dry(乾燥)」に「禁酒」という意味があることにちなむという。

Point to Grow

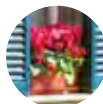
開花時期：4〜5月(自然開花)

出回り時期：11〜6月

❖ 冬は日当たりの良い室内で、夏は直射日光を避けて風通しの良い半日陰に置く。

❖ 冬も水を切らさないように注意する。

❖ 翌春の花芽のため、花後すぐ剪定する。



… Language of Flowers …

【花言葉】「あなたに愛される幸せ(白)」「恋の喜び」「禁酒」「青春の喜び(ピンク)」「節制(赤)」など

【言葉の由来】「あなたに愛される幸せ」は、白い花姿を純白の花嫁に見立てている。「節制」や「禁酒」は、「乾燥」という意味のラテン語を語源に持つ花名に由来する。

【誕生花】1月8日(白)、3月4日、3月18日(ピンク)、3月22日(赤)、8月8日、12月22日(赤)など



上/青空によく映える黄色いアザレア。下右/色鮮やかな花をたくさん咲かせるアザレアは、庭園やガーデンニングなどに導入されることが多い。下左/「青春の喜び」という花言葉を持つ、ピンクのアザレア。



移り気、辛抱強い愛情、一家団らん

アジサイ

Hydrangea

和名アジサイ、紫陽花 / 学名 *Hydrangea macrophylla* / 分類アジサイ科 / 落葉低木
 原産地 日本、熱帯アジア / 樹高二〇センチ〜四メートル



Point to Grow

開花時期：5〜7月

出回り時期：3〜6月

- 水はけが良く、半日陰で湿気のある場所で育てる。
- 鉢植えの場合、年に一度花後に植え替える。



● 表土が乾いたら水を与え、株元が乾燥しないようにする。

薄 暗い梅雨を彩る花、アジサイ。花名の由来は、「藍色の小花が集まる」という意味の言葉「集真藍」がなまったものとする説が一般的だ。日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

薄

暗い梅雨を彩る花、アジサイ。花名の由来は、「藍色の小花が集まる」という意味の言葉「集真藍」がなまったものとする説が一般的だ。

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

日本での歴史は古く、「万葉集」に収録された大伴家持と橘諸兄の和歌にその名が登場する。しかし平安時代以降は、開花後徐々に花色が変化するというアジサイの特徴が人の心変わりや結び付けられ、不道徳な花だとされたという。近年では、小花が集まって咲く姿から家族の結び付きを意

Language of Flowers

【花言葉】「移り気」「浮気」「一家団らん」「辛抱強い愛情(青)」「冷淡(青)」「寛容(白)」「元氣な女性(ピンク)」など

【言葉の由来】「移り気」や「浮気」は、花色が徐々に変化する特徴に、「辛抱強い愛情」は、開花期間が長く、梅雨を耐え忍ぶ姿にちなむ。

【誕生花】6月1日(ガクアジサイ)、6月3日、6月29日、7月1日、7月13日(ガクアジサイ)など



味する花言葉が付けられ、これによって結婚式のブーケや装飾などに用いる花として人氣が高まっている。なお、ヨーロッパには一八世紀後半に伝わり、品種改良が進められて広く流通した。

上/梅雨のどんよとした雰囲気をもくしてくれる、ピンクや紫のアジサイ。下/「一家団らん」という花言葉を持つアジサイは、結婚式のブーケや装飾としても人気だ。

04

信じる恋、思い出、変化、私の愛はあなたの愛より深い

アスター

Aster

和名エゾギク(蝦夷菊) 学名 *Callistephus chinensis* 分類 キク科 / 一年草 原産地
中国北部 草丈 三〇センチ〜メートル



本

種のみでエゾギク属を構成するアスター。かつてはシオン属(アスター属)に分類されていたため、今も

なおその名残で「アスター」と呼ばれている。また、学名の「*Callistephus*」は「美しい冠」を意味するギリシヤ語に由来したもので、その美しい見た目から名付けられたという。

日本には江戸時代に伝来し、当時から品種改良が進められた。「エゾギク」という和名の由来は、「江戸菊」が変化したという説や、蝦夷のような冷涼地でよく育つことから名付けられたという説などがある。なお、ヨーロッパには一八世紀に中国から伝わったとされ、その後さまざまな改良が行われて、現在のような多種多様な花型が誕生した。

*蝦夷=江戸時代に使われていたアイヌの居住地を指す言葉。現在の北海道を中心に、樺太、千島列島を含む。



Language of Flowers

【花言葉】「信じる恋」「思い出」「変化」「変化を好む(赤)」「甘い夢(ピンク)」「私を信じてください(白)」「私の愛はあなたの愛より深い(紫)」など

【言葉の由来】恋愛に関する花言葉は、恋占いで有名なマーガレットに似た品種があることにちなむ。「変化」は、種類に富んだ色や形に由来。

【誕生花】4月3日、4月10日、4月22日、8月7日(赤)、8月29日、9月10日(白)、11月28日(ピンク)など

Point to Grow

開花時期：7~8月

出回り時期：6~9月

- 過去5年間アスターを植えた場所には植えない。
- 蕾ができるまでは乾燥を避け、蕾が見えたら乾燥気味に保つ。
- 枯れた花や葉はこまめに摘み取る。



上/蜜を吸いにやって来たミツバチと、紫のアスター。下/「美しい冠」を語源に持つ学名の通り、アスターはカラフルで美しい花を咲かせる。



Point to Grow

開花時期: 4月下旬～6月

出回り時期: 2～3月(球根)、
4～6月(切花)

- 春～秋は日当たりの良い屋外で、夏は半日陰で育てる。
- 秋以降は徐々に水の量を減らす。
- 冬は5℃以上の場所で球根を貯蔵する。



ユリに似た花を咲かせるアマリリス。「アマリリス」といえば、もともとは南アフリカ原産のホンアマリリス属を指していたが、現在これらは「ベラドンナ・リリー」や「ホンアマリリス」の名で販売されている。現在、アマリリスとして流通している花の多くは、南アメリカ原産のヒツペアストルム属だ。また花

名は、古代ギリシヤや古代ローマ時代の詩に登場する羊飼いの少女の名前からとったもので、旧属名の名残である。一七世紀後半、ヨーロッパで初めてアマリリスが紹介され、その後さまざまな園芸品種が誕生。日本では、江戸時代にヒツペアストルム属の原種が輸入され、昭和初期～戦後に品種改良が行われた。

… Language of Flowers …

【花言葉】「誇り」「おしゃべり」「すばらしく美しい」「内気」「強い虚栄心」など

【言葉の由来】名前の由来となった羊飼いの少女にまつわる花言葉が多い。「おしゃべり」は、横向きについた花が隣の花と話しているように見えることから。

【誕生花】1月26日、2月24日、3月22日、5月6日、5月28日、5月30日、6月21日、7月16日など



上/たくさんのアマリリスが咲く様子は、花言葉の通り、花同士が楽しそうにおしゃべりしているかのようだ。下右/色鮮やかで凛とした赤いアマリリス。下左/可憐な雰囲気を持つ白いアマリリス。

05

誇り、おしゃべり、すばらしく美しい

アマリリス

Amaryllis

和名 アマリリス 学名 *Hippeastrum* 分類 ヒガンバナ科/多年草 原産地 南アメリカ
草丈 四〇～六〇センチ



良い便り、メッセージ、希望

アイヤメ Iris

和名 アイヤメ(菖蒲、文目、綾目) 学名 *Iris sanguinea* 分類 アイヤメ科/多年草
産地 日本、中国、朝鮮半島、シベリア 草丈 三〇〜六〇センチ 原



Point to Grow

開花時期：4月下旬〜5月

出回り時期：4〜5月

- 水はけの良い土に植え、風通しの良い半日陰で育てる。
- 水はたっぷり与える。ただし、冬は乾燥気味に管理する。
- 枯れた花は茎の根元から切り落とし、枯れ葉も適宜取り除く。



前

面^がに垂れた紫の花びら
が印象的なアイヤメは、

北海道〜九州まで、各地で見られる日本古来の花である。その姿はカキツバタやハナシヨウブとよく似ており、「いずれがアイヤメかカキツバタ」という言葉もあるほどだ。しかし、湿地を好むカキツバタやハナシヨウブと異なり、アイヤメは乾燥した山野に自生する。花名の語源については諸説あり、かつては似た形状の葉を持つシヨウブを「アイヤメグ

..... Language of Flowers

【花言葉】「良い便り」「うれしい便り」「メッセージ」「希望」「愛」「私は燃えている」など

【言葉の由来】「良い便り」や「メッセージ」は、英名の由来となった女神イリスが、虹で天地を結び、神々の伝令係を務めたという神話に由来する。

【誕生花】5月5日、5月18日、6月6日など



サ」「現在のアイヤメを「ハナアイヤメ」と呼んでいた。やがて、両者を区別するために今の名前前に転じたとされている。また、英名の「Iris^{アイリス}」はギリシャ語で「虹」を意味し、ギリシャ神話に登場する虹の女神イリスに由来したものだ。

上/紫と黄色のコントラストが美しい満開のアイヤメ。下/乾燥気味の土壌を好むアイヤメは、家庭でも比較的簡単に栽培することができる。

持続、未来への憧れ、エキゾチック、幸せな日々

アルストロメリア

Astroemeria

和名 ユリズイセン(百合水仙) 学名 *Astroemeria* 分類 ユリズイセン科/多年草
原産地 南アメリカ 草丈 一〇センチ〜二メートル



豊

豊富な花色を持つアルストロメリアは、チリを中心とする南アメリカに約一〇〇種の野生種が分布しており、その生育環境も品種によってさまざまだ。ユリのよう

な見た目と原産地から、別名「リリー・オブ・インカ(インカのユリ)」とも呼ばれている。この花がヨーロッパに伝わったのは、一七五三年のこと

南アメリカを旅行していたスウェーデンの植物学者、カール・フォン・リンネが種子を採集し、彼の親友であるヨードナス・アルストレーマー男爵の名にちなんで命名した。

日本には大正時代末期に渡来したものの、当時はあまり広まらず、後の一九八〇年代に園芸品種として改良されたものが広く普及した。

Point to Grow

開花時期：5〜6月(一季咲き)、5〜11月(四季咲き)

出回り時期：通年

- 高温多湿に弱いため、夏は風通しの良い半日陰に置く。
- 花や葉茎が枯れたら水やりは不要。
- 庭植えの場合、冬は腐葉土で防寒する。



Language of Flowers

【花言葉】「持続」「未来への憧れ」「エキゾチック」「幸せな日々」「幸い(赤)」「凛々しさ(白)」「気配り(ピンク)」など

【言葉の由来】「持続」は花持ちの良さに由来している。また、「エキゾチック」は、中心部に斑点のある品種の華やかな花姿にちなむと考えられる。

【誕生花】2月18日、3月13日、3月25日、4月18日、11月14日、12月16日など



上/原産地の南米を思わせる、情熱的な花色のアルストロメリア。下/ピンクのアルストロメリアは、可憐でかわいらしい雰囲気をもとう。

08

恋にもだえる心、炎のような輝き

アンズリウム

Anthurium

和名 オオベニウチワ(大紅団扇) 学名 *Anthurium andraeanum* 分類 サトイモ科 / 多年草 原産地 熱帯アメリカ〜西インド諸島 草丈 三〇〜八〇センチ

ア

アンズリウム属の植物は、熱帯アメリカ〜西イン

ド諸島にかけて約六〇〇種が分布している。なかでも代表的な種が「オオベニウチワ」で、「アンズリウム」というと本種を指すことが多い。

赤いハート形をした部分は花びらではなく、「仏炎苞」と呼ばれるもの。本来の花は、その中央から突き出た「肉穂花序」と呼ばれる棒状の部分だ。和名の「大紅団扇」とは、この仏炎苞を赤いうちわに見立てて名付けられた。また、アンズリウムという花名は、「*ourra* (尾)」と「*anthos* (花)」という二つのギリシヤ語が語源



となつている。

日本に伝来したのは明治時代のこと。以降、現在に至るまでオオベニウチワのさまざまな交配品種が誕生している。

… Language of Flowers …

【花言葉】「恋にもだえる心」「炎のような輝き」「煩惱」「印象深い」「情熱(赤)」「熱心(白)」「飾らない美しさ(ピンク)」など

【言葉の由来】「煩惱」や「恋にもだえる心」は、ハート形をした赤い仏炎苞に由来して付けられたと考えられる。

【誕生花】1月14日、1月22日、3月17日(ピンク)、7月29日(赤)、8月8日、8月25日(白)など

Point to Grow

開花時期：5〜10月

回り時期：通年

- 半日陰で管理して葉焼けを防ぐ。
- 根が腐らないように注意し、表土が乾きかけたらたっぷり水を与える。葉や茎には時々霧吹きなどで水をかける。
- 寒さには弱いが、最低10℃程度なら越冬できる。



上／凛とした花姿が美しい白いアンズリウム。下／赤いアンズリウム。その最大の特徴ともいえる仏炎苞は、色鮮やかなハート型をしており、仏炎苞の中央からは、棒状の花序が伸びている。



尊重と愛情、幸せな家庭

イチゴ

Strawberry

和名イチゴ(苺) 学名 *Fragaria × ananassa* 分類バラ科/多年草 原産地北・南
アメリカ 草丈二〇〜四〇センチ



Point to Grow

開花時期：3〜5月

出回り時期：4〜5月、10月

- 春に出回る苗は、育苗してから秋に定植する。
- 苗は深めの鉢に浅植えにする。
- 乾燥、加温に注意しながら適度に水を与える。



それ以前の日本では、野イチゴ全般を「イチゴ」と呼んでいたという。この名前の語源は明らかになっていないものの、『日本書紀』に記されている「伊致麻姑」や、『新撰字鏡』

誕生した品種で、日本には江戸時代後期に輸入された。オランダで、北米原産の「パージニアイチゴ」と南米原産の「チリイチゴ」を交配させて

私

たちが日頃口にするイチゴのほとんどは、「オランダイチゴ」という品種である。これは一八世紀中頃の

に記されている「比古」が転じたものとする説がある。現在、日本では毎年一五〜二〇トンものイチゴが生産されており、特に栃木県の生産量は二〇一五年の時点で四七年連続第一位を誇っている。

Language of Flowers

【花言葉】「尊重と愛情」「幸せな家庭」「先見の明」「あなたは私を喜ばせる」など

【言葉の由来】「尊重と愛情」は、キリスト教においてイチゴが聖ヨハネと聖母マリアのエンブレムになっていることから付けられた。「幸せな家庭」は、親株から複数のつるが伸びる様子にちなむ。

【誕生花】3月31日、4月13日、5月4日、12月27日など



上/白と黄色のコントラストがかわいらしいイチゴの花と、その蜜を吸うミツバチ。下/春になると白い花を咲かせて数個の果実を房状につける。ヘタの部分まで色付いたら食べ頃だ。

10

ウメ

Chinese Plum

高潔、忠実、澄んだ心、気品

和名ウメ梅(ウメ) 学名 *Prunus mume* 分類バラ科/落葉高木 原産地中国中部 樹



冬

から初春にかけて、色鮮やかな花を咲かせるウメ。花の観賞を目的とする

「花ウメ」と、果実の採集を目的とする「実ウメ」があり、庭植え、鉢植え、盆栽などさまざまな形で楽しまれている。

日本に伝来したのは奈良時代以前と考えられており、当時はサクラよりも親しまれていたという。また、平安時代には、菅原道真がウメをこよなく愛したこと、ウメの花を圖案化したものが天満宮の神紋となり、やがて家紋として使用されるようになった。なお、名前の由来については、ウメを加工した中国の漢

Point to Grow

開花時期：1~3月

出回り時期：11月下旬~1月

● 水はけが良く肥沃な土に植え、日当たりの良い場所で管理する。

● 植え付け~定着までは水をたっぷり与える。それ以降は過度な乾燥に注意。



Language of Flowers

【花言葉】「高潔」「忠実」「忍耐」「澄んだ心」「あでやかさ」「厳しい美しさ」「気品(白)」など

【言葉の由来】「忠実」は、京から大宰府に左遷された菅原道真が、自宅のウメを和歌に詠んだところ道真を慕うウメが一夜で飛んで来たという「飛梅伝説」による。「気品」は白ウメの上品な花姿にちなむ。

【誕生花】1月1日、1月3日、1月5日、1月11日(白)、2月1日、2月7日、10月24日、12月27日など

方葉「烏梅^{うばい}」が語源であるという説や、「ムエイ」という中国語の発音が転じたという説など、諸説ある。

上/ピンクの花を咲かせるウメ。このほかにも、品種によって薄ピンクや白といった花色もある。下/花後の5~6月に実るウメの果実。生食はせず、主に梅酒や梅干しの原料として利用される。